

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年2月2日

上場取引所 大

上場会社名 クルーズ株式会社

コード番号 2138 URL <http://crooz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小淵 宏二

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理担当執行役員

(氏名) 櫻井 英哉

TEL 03(5786)7080

四半期報告書提出予定日 平成23年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	3,791	38.1	878	110.1	876	101.3	507	—
22年3月期第3四半期	2,746	—	418	—	435	—	△2	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	9,246.10	8,096.71
22年3月期第3四半期	△99.16	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	2,277	1,273	55.8	23,164.79
22年3月期	1,546	827	53.4	30,087.39

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 1,270百万円 22年3月期 825百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	2,250.00	2,250.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	1,500.00	1,500.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 有

(参考) 当社は、平成22年10月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また、平成23年2月2日に別途発表したとおり、今期配当予想の上方修正ならびに平成23年3月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施する予定です。よって、今期の配当予想につきましては、これらの配当予想修正ならびに株式分割を考慮して算出しております。

3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,900	34.2	1,100	154.1	1,090	145.9	630	—	5,742.10

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

(参考) 当社は、平成22年10月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また、平成23年2月2日に別途発表したとおり、平成23年3月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施する予定です。よって、業績予想の1株当たり当期純利益につきましては、これらの株式分割を考慮して算出しております。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 54,858株 22年3月期 27,429株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 一株 22年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 54,858株 22年3月期3Q 27,408株

(注) 当社は、平成22年10月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 当社は、平成22年10月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また、平成23年2月2日に別途発表したとおり、今期配当予想の上方修正ならびに平成23年3月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施する予定です。よって、平成23年3月期(予想)1株当たり配当金および業績予想の1株当たり当期純利益につきましては、これらの配当予想修正ならびに株式分割を考慮して算出しております。

(2) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報.....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報.....	3
2. その他の情報.....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	3
3. 四半期財務諸表.....	4
(1) 四半期貸借対照表.....	4
(2) 四半期損益計算書.....	5
【第3四半期累計期間】	
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書.....	6
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	7

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期のインターネットビジネス市場は、モバイルインターネット領域が成長を加速し拡大を続けています。当社が注力事業と位置づけているソーシャルゲームは、急速に市場を拡大し、その市場規模は、平成21年度の447億円から3年以内に1,500億円を超えると予測しています(※1)。また、当社が中期的な成長ドライバーと位置づけている、インターネット通販市場は、モバイル通販の利用拡大が牽引し、平成21年度の6.4兆円から平成25年には10兆円を突破すると予測されています(※2)。今期以降、スマートフォンの本格的な普及が進む中、モバイルインターネットの利用がさらに拡大すると見られ、モバイルインターネットビジネスの存在感は今後のインターネットビジネス市場においてますます高まるものと考えています。

そのような状況の中、当社におきましては、当第1四半期よりモバゲータウンにて参入したソーシャルゲームが引き続き好調に推移しました。これまでに「熱血硬派くにおバトル」、「レースバトルだ!くにおくん」、「熱血バイクGP」、「くにおサッカー」のくにおシリーズ4タイトルをモバゲータウンに提供し、平成22年12月末時点の会員数は、あわせて344万人を突破し、引き続きモバゲータウンを代表するコンテンツの地位を確立しています。これは、当社の重要施策である、選択と集中戦略と焦点絞込戦略を推進し、利益率の高いソーシャルゲームに注力した成果です。また、当社ではユーザーの動向分析や効果検証といったPDCAサイクルを、人に依存せずに素早く行える仕組みと、独自のフレームワークを保有し、大量のトラフィックに柔軟に対応できるネットワークインフラを自前で運用しています。さらに、「熱血硬派くにおくん」の様にコンテンツ自体に引きがあり、ソーシャルゲームの醍醐味であるコミュニケーション要素の強い著作権を持つことで他社と差別化を行っています。これらの強みを生かしつつ一層磨きをかけることでソーシャルゲームの持続的な成長を図っています。今後は、モバゲータウンの運営会社DeNA社が展開するX-borderへの参画を皮切りに、スマートフォン展開を含め世界に進出し、ソーシャルゲームの成長をより一層加速させてまいります。

このような事業活動の結果、当第3四半期における売上高は3,791,385千円(前年同四半期比38.1%増)、営業利益は878,491千円(前年同四半期比110.1%増)、経常利益は876,676千円(前年同四半期比101.3%増)、四半期純利益は507,222千円(前年同四半期比509,940千円の増加)となり、第2四半期に続き過去最高益を更新しました。

出所：(※1)MCFおよび当社推計 (※2)野村総合研究所

(2) 財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期末における総資産は、収益拡大に伴う現預金の増加、売掛金の増加などにより、2,277,102千円(前事業年度比47.3%増)となり、前事業年度末に比べ731,005千円の増加となりました。

(負債)

当第3四半期末における負債は、事業拡大に伴う買掛金の増加、課税所得の増加に伴う未払法人税の増加、長期借入金の返済などにより1,003,393千円(前事業年度比39.6%増)となり、前事業年度末に比べ284,767千円の増加となりました。

(純資産)

当第3四半期末における純資産は、利益剰余金の増加などにより1,273,709千円(前事業年度比53.9%増)となり、前事業年度末に比べ、446,238千円の増加となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末における現金及び現金同等物は、1,072,954千円(前年同四半期比378,964千円の増加となりました)。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、734,778千円(前年同四半期比259,821千円の収入増加)となりました。主な要因は、税引前四半期純利益が871,379千円となり、仕入債務が157,675千円増加したものの、売上債権が273,595千円増加したことによるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、87,040千円(前年同四半期比60,326千円の支出減少)となりました。主な要因は、サーバー等有形固定資産の取得による支出75,771千円によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、232,710千円(前年同四半期比309,174千円の支出減少)となりました。主な要因は、配当金支払による支出61,715千円、長期借入金の返済による支出171,200千円によるものです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年10月27日に開示いたしました業績予想に変更ありません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当ありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これに伴い、当第3四半期の営業利益、経常利益は、適用前に比べて2,347千円減少し、税引前四半期純利益は4,433千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による敷金の変動額は4,433千円であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,072,954	657,927
売掛金	872,343	598,748
その他	65,790	26,885
貸倒引当金	△4,435	△5,921
流動資産合計	2,006,653	1,277,640
固定資産		
有形固定資産	73,738	31,336
無形固定資産	49,547	72,216
投資その他の資産	147,162	164,904
固定資産合計	270,448	268,456
資産合計	2,277,102	1,546,096
負債の部		
流動負債		
買掛金	322,746	165,071
1年内返済予定の長期借入金	—	57,600
未払金	278,766	311,310
未払法人税等	345,422	12,904
その他	56,457	58,140
流動負債合計	1,003,393	605,025
固定負債		
長期借入金	—	113,600
固定負債合計	—	113,600
負債合計	1,003,393	718,625
純資産の部		
株主資本		
資本金	320,372	320,372
資本剰余金	310,372	310,372
利益剰余金	640,029	194,521
株主資本合計	1,270,774	825,266
新株予約権	2,934	2,204
純資産合計	1,273,709	827,470
負債純資産合計	2,277,102	1,546,096

(2) 四半期損益計算書
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	2,746,144	3,791,385
売上原価	1,055,715	1,487,399
売上総利益	1,690,428	2,303,985
販売費及び一般管理費	1,272,200	1,425,494
営業利益	418,227	878,491
営業外収益		
受取利息	420	154
保険解約返戻金	24,748	—
その他	3,273	819
営業外収益合計	28,443	974
営業外費用		
支払利息	7,015	1,417
リース解約損	4,248	687
その他	1	683
営業外費用合計	11,265	2,788
経常利益	435,405	876,676
特別利益		
関係会社株式売却益	13,879	—
抱合せ株式消滅差益	17,814	—
特別利益合計	31,693	—
特別損失		
固定資産除却損	325,950	—
減損損失	133,734	3,210
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,086
その他	18,710	—
特別損失合計	478,394	5,297
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△11,296	871,379
法人税、住民税及び事業税	46,175	365,361
法人税等調整額	△54,753	△1,204
法人税等合計	△8,578	364,157
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,717	507,222

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△11,296	871,379
減価償却費	113,376	46,852
減損損失	133,734	3,210
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△161	△1,485
支払利息	7,015	1,417
抱合せ株式消滅差損益(△は益)	△17,814	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△13,879	—
固定資産除却損	325,950	—
受取利息	△420	△154
株式交付費	—	526
リース解約損	4,248	687
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,086
売上債権の増減額(△は増加)	△72,145	△273,595
仕入債務の増減額(△は減少)	△39,558	157,675
未払金の増減額(△は減少)	29,440	△25,217
その他の資産の増減額(△は増加)	29,871	△12,376
その他の負債の増減額(△は減少)	18,267	6,057
その他	18,710	—
小計	525,339	777,062
利息の支払額	△6,254	△1,167
利息の受取額	389	154
法人税等の支払額	△41,498	△34,940
その他の支出	△3,019	△6,330
営業活動によるキャッシュ・フロー	474,956	734,778
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△20,377	△75,771
投資有価証券の取得による支出	—	△2,100
無形固定資産の取得による支出	△170,905	△1,351
関係会社株式の売却による収入	63,879	—
保険積立金の積立による支出	—	△5,618
敷金の差入による支出	△79,212	△2,200
敷金の回収による収入	59,248	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△147,367	△87,040
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△510,000	—
長期借入金の返済による支出	△9,600	△171,200
株式の発行による収入	174	—
配当金の支払額	△24,663	△61,715
株式の発行による支出	—	△526
新株予約権の発行による収入	2,204	730
財務活動によるキャッシュ・フロー	△541,884	△232,710
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△214,295	415,027
現金及び現金同等物の期首残高	859,132	657,927
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	49,152	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	693,990	1,072,954

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。